

午後2時00分開会

第1部 司会（林富士見地区町会連合会会長） 大変長らくお待たせをいたしました。これより、皇居周辺の景観と観光を考える区民講演会を開催をいたしたいと思ひます。

本日は、各町会長様を初め、議員待遇の方々及び関係団体の皆様には、大変お忙しい中、このように本当に多くの方にお集まりいただきまして、本当にありがとうございました。

私は、この区民講演会の前半の部分の司会をさせていただきます、富士見地区町会連合会の林と申します。ひとつ、本日、皆様方のご協力を得ながら進めてまいりたいと思ひますので、よろしくお願ひを申し上げたいと思ひます。（拍手）

ここで、皆様方に資料の確認をさせていただきます。先ほど受付のほうでお手元に封筒に入れたものをお渡ししてあるはずでございますけれども、その中の確認をさせていただきます。

封筒の中には、本日のプログラム、千代田区環境ビジョン概要版、皇居外苑や東御苑のウォーキングマップが3種類、そして、一般参賀の案内。それと、この区役所の1階にもございます、パン工房さくらベーカリーで製造・販売いたしておりますクッキーとサブレを同封しておりますので、ひとつご確認をいただき、もし中に落ちがございましたら、私のほうまでお申し出をいただければと思ひしております。

また、一つお願ひがござひます。携帯電話等々につきましては、この講演会の進行にやや支障を来す部分も出てくるかと思ひますので、電源をお切りになるか、また、マナーモードに設定をしていただきたいと思ひますので、ご協力を賜りたいと思ひます。よろしくお願ひいたします。

それでは、講演に先立ちまして、大塚實万世橋地区町会連合会の会長より開会のごあいさつをさせていただきます。大塚会長、よろしくお願ひいたします。

大塚万世橋地区町会連合会会長 ただいまご紹介をいただきました、万世橋地区町会連合会の会長を務めております大塚でございます。どうぞよろしくお願ひを申し上げます。

皆様には、大変ご多忙なところを多数ご出席を賜りまして、まことにありがとうございました。開会に当たり、一言ごあいさつをさせていただきます。

私ども連合町会と区議会は、昭和58年から区民集会運営協議会を設置し、千代田区の抱える課題の解決に取り組んでまいりました。ご案内のとおり、これまで、まちづくりや相続税、固定資産税の減税などを区民集会のテーマに取り上げ、区民の皆様との意見の交換や関係機関への要請行動なども行い、成果を上げてまいったところでございます。

本年も、区民集会をどうするか、何をテーマに取り上げるか、区民集会運営協議会の中で活発な議論を行ってまいりました。その結果、区民はもとより、国民の共有財産である皇居周辺の自然や景観を初めとした本区の観光資源を活用して、千代田区のにぎわいやコミュニティの活性化を図ることとし、来年秋をめどに区民集会を開催することになりました。本日の講演会は、その第一歩として、「皇居の自然と区民の暮らし」をテーマに、専門分野の異なるお二人の講師からご講義をいただくこととなりました。この講演会を通して、皇居周辺の自然や景観の魅力を再認識するとともに、区民挙げての区民集会につながっていくことを祈念いたしまして、開会のごあいさつとさせていただきます。ありがとうございました。（拍手）

第1部 司会 ありがとうございました。大塚会長、本当にありがとうございました。

ここで、この会を立ち上げております区民集会運営協議会のメンバーの皆さんを、私のほうから紹介をさせていただきます。

まず初めは、座長でもございます、桜井ただし千代田区議会議長でございます。（拍手）

次に、副座長の田中康博麴町出張所地区連合町会会長でございます。（拍手）

続きまして、各連合町会長さんをご紹介をさせていただきたいと思います。

花田勲神保町地区町会連合会会長でございます。（拍手）

続きまして、岩崎與土神田公園地区連合町会会長でございます。（拍手）

続きまして、ただいま開会の辞を述べられました、大塚實万世橋地区町会連合会会長でございます。（拍手）

続きまして、松崎浩一神田駅東連合町会会長でございます。（拍手）

次は、安岡賢二岩本町東神田町会連合会会長でございます。（拍手）

連合町会の最後になりますけれども、井出武甫秋葉原東部町会連合会会長でございます。（拍手）

続きまして、議会側の方々をご紹介させていただきたいと思います。

山田ながひで副議長でございます。（拍手）

議会運営委員会委員長、小林やすお議員でございます。（拍手）第2部の司会を担当する予定になってございます。

同副委員長の木村正明議員でございます。（拍手）

同委員、嶋崎秀彦議員でございます。（拍手）

同じく、寺沢文子議員でございます。（拍手）

同じく、大串ひろやす議員でございます。（拍手）

同じく、中村つねお議員でございます。（拍手）

同じく、河合良郎議員でございます。（拍手）

同じく、鳥海隆弘議員でございます。（拍手）

それ以外にも、今回の運営には、本当に全議員の皆様方がいろんなセクションで担当に当たっておられますけれども、時間の関係もでございます。割愛をさせていただきたいと思っております。

それでは、主催者を代表いたしまして、副座長の田中康博麴町出張所地区連合町会会長より、ごあいさつを申し上げたいと思います。田中会長、よろしく願いいたします。（拍手）

田中麴町出張所地区連合町会会長 皆さん、こんにちは。（「こんにちは」と呼ぶ者あり）ただいまご紹介いただきました、麴町出張所地区連合町会の田中でございます。開会に当たりまして、主催者を代表いたしまして、一言ごあいさつをさせていただきます。

本日は、大変、皆様ご多用中のところ、多くの皆様方にご参加いただきまして、まことにありがとうございます。

さて、先ほど大塚会長の開会ごあいさつにございましたように、私ども区民集会運営協議会は、活気にあふれた千代田区を目指し、来年秋をめどに区民集会を開催することとしております。本日の講演会は、その第一歩、足がかりとして開催いたすものでございます。

本日の講演会のテーマは、「皇居の自然と区民の暮らし」とさせていただきましたが、

私たち千代田区の区民にとって、身近にありながら、皇居周辺の里山的景観のすばらしさや魅力については、余り知られていないのではないかと思います。

今回は、お二人の講師の先生方から、それぞれの専門分野における体験や経験を踏まえたお話や、来年の区民集会に向けた取り組みの方向性などについてご教示をいただければ、幸いに存じます。

また、講義終了後には質問等の時間を設けてありますので、皆様方から活発なご意見などを承ればと期待しております。

最後になりましたが、本日の講義を快くお引き受けいただきました講師のお二人の先生方には、厚く御礼を申し上げますとともに、ご参加いただきました皆様方のご健勝と今後の活躍をお祈りいたしまして、簡単ではございますが、本日のごあいさつとさせていただきます。

本日はありがとうございました。（拍手）

第1部 司会 田中会長、本当にありがとうございました。

続きまして、千代田区議会を代表いたしまして、桜井ただし議長にごあいさつをお願いいたします。（拍手）

桜井議長 ただいまご紹介をいただきました、区議会議長の桜井ただしでございます。本日は、お忙しい中を、この区民集会、区民講演会に大勢皆様お集まりをいただきましたことを、まずもお礼を申し上げたいと思います。

開会のごあいさつの前に、恐らくこの区議会の議場に初めていらした方も多かろうと思いますので、ちょっと議会の宣伝をさせていただきたいと思っております。

この議場でございますけども、いつもと違ったレイアウトをきょうはつくってございます。後ろに画像が出てまいりますけども、皆様方から見て左手のところに、いつもは議員が、25人の議員が座っております。ただいまは24人でございますけども。そして、皆様方から見て右手のほうに、区長を初め、理事者の皆さんが座っているわけでございます。そして、私の後ろ、一段高いところに議長席がございまして、私のこの席は、議員の皆さんが、区政の抱えるさまざまな課題を区長を初め執行機関の皆さんに質問をする、そういうスペースに実はなっているわけでございます。この演台もそうなんですけども、実は、議員の皆さんまたは理事者の皆さんの机とこの演台も、千代田区の姉妹都市でございます秋田の五城目町というのがございますけれども、こちらの皆さんにお願いをしまして、特注でつくっていただきました。そんなことで、きょうは映像で少し出ておりますけども、このような機の配置で、いつもは行っているところでございます。

それと、千代田区議会の一つの特徴でございますけども、後ろにございます投票システムというものがございます。これはいろいろな議題が出てきたときに、その採決をする場合に、通常、起立採決として、立っていただくということで、数を数えるわけでございますけども、千代田区議会では、ほかの議会に先立って、このテーブルの机のところに、賛成と反対のボタンがございまして、そのボタンを押すことによって、その議員が賛成をしたのか反対をしたのかということが即座にわかるようになってございます。議員のそういう、議会人としての意思が示されると、そのような仕組みをいち早く取り入れたと。開かれた議会を千代田区議会としては行っていこうという、そのうちの一つでございます。そんなことをご紹介をさせていただきました。

先ほど司会者の林会長からお話がありましたけども、きょうはお手元の袋の中に、クッキーをお土産で用意させてございます。この千代田区の庁舎は1階から10階を使ってございますけども、この千代田区役所の中に、障害者の皆さんに頑張っていたごう、就労をサポートしようという、そういう施設を設けてございます。こういう区役所の中に障害者施設を組み入れるというのは、全国の中でも非常に珍しい施設でございますけども、千代田区としては積極的に取り入れました。

そして、皆様、1階にお入りいただいたときにお気づきになったと思いますけども、パン屋さんがございます。そして、その奥にはパン工房がございます。ここに働いている方の中に、障害者の方に働いていただいて、一緒になってクッキーやパンをつくっていただくということで、実はこのパン工房、大変な人気でございまして、このかわいでは大変な人気スポットになっております。きょう、ぜひ、クッキーも、後ほどご賞味をいただきたいと、そのように思っているところでございます。

さて、本日のテーマでございまして、ご案内のとおり、「皇居の自然と区民の暮らし」ということで、お二人の先生にお話をいただけることとなりました。本当にお忙しい中を講義をいただけるということで、感謝を申し上げます。ありがとうございます。

私どもこの千代田区議会は、観光というキーワードに長年にわたって取り組んで、調査・研究をいたしてまいりました。我が国が高度経済成長社会から成熟社会へ移行する中で、観光のあり方というものも大きく変わってまいりました。これまでの名所や旧跡を見学するという旅行から、文化や歴史、街並み、食事や買い物など、都市の持つ多彩な魅力を楽しむ都市観光へ、関心が高まっているところでございます。

一方、都心部における開発の進展とともに、区民はもとより、区民共有の財産でございまして皇居周辺の景観保全が、都市景観の課題として、一方ではクローズアップをされているところでございます。

こうした背景を踏まえ、連合町会の皆様方とともに協議を重ね、観光を基軸とした地域の活性化を、区民集会のテーマに取り上げることといたしました。

本日の講演会は、来年の区民集会へつながる最初のステップとなるものと期待をいたしているところでございます。私ども千代田区議会といたしましても、本日の取り組みのほか、区民の皆様方の、安全で、安心して住めるこの千代田区をつくるための、さまざまな事業に積極的に取り組んでまいり所存でございまして。

皆様方のご支援とご協力をお願いを申し上げまして、ごあいさつにかえさせていただきます。本日はありがとうございました。（拍手）

第1部 司会 桜井議長、本当にありがとうございました。

続きまして、石川雅己千代田区長にごあいさつをちょうだいしたいと存じます。どうぞよろしくお願い申し上げます。（拍手）

石川区長 区長の石川でございます。きょうの講演会に当たりまして、一言ごあいさつを申し上げます。

千代田区の景観について、どういう考え方を持って臨んでいるかということをお話ししながら、ごあいさつにかえさせていただきますと思います。

千代田区の景観に取り組む考え方は、京都や鎌倉のように、歴史的建造物を保存し、それを守って行って、それが観光というところに結びつくという、そういう考え方を持って

いるわけではございません。と申しますのは、私たちの千代田区は、日本の社会の中で、ある面では、さまざまな都市活動が活発に行われ、日本の社会を、ある面では千代田区は担っております。例えば、税金で申し上げるならば、千代田区で国税の1割が皆様方のさまざまな活動で実は納められているという、こういう社会的な位置づけがございます。したがって、私たちの景観に関します考え方は、さまざまな都市活動、経済活動と景観とをどのように調和をし、そして、考え方を整理し、新しい創造をまちとしてつくるかという、こういう考え方でございますので、必ずしも規制、規制という考え方を持っているわけではないということは、ぜひご理解を賜りたいと思います。

したがって、単に古いものを保存するというだけではなくて、しかも、すべて新しいものに取りかえるということでもない、その調和をどういうふうに保っていくかということが我々の景観行政の一番難しいところであるということ、まずご出席の皆様方にご理解を賜りたいと思います。

そうした中で、私たちは、平成10年以来、景観まちづくり条例というものを全国に先駆けて作りまして、まさに開発と保存との、言うなれば調和、それをどうやって保ちながらこの千代田区の風格を残すかということで、ずっと歩んでまいりました。ところが、平成16年に景観法という法律ができて、これを具体的にこなさなきゃならないということになりまして、都政と私たちとの考え方は基本的には一致しております。この千代田区については、保存型ではなくて、新しいまちづくりとどう調和をし、そして、つくっていくかということについては、基本的に一致しております。ただ違うことは、この千代田区全域を、東京都が景観という立場で担うという考え方です。私は、そうした意味では、物が違うのではないかと。やはり一番身近なところが景観というものを担うべきだということで、今、そのせめぎ合いをしております。とらえ方によっては、東京都は千代田区の景観というのを直轄的な位置づけとして認識をしているのではないかというふうに、私はきつく東京都に申しております。まさに身近なところが考えることだと。今はまだ、その辺が実は話がついていない中で、きょうのこうした講演会が催されるわけでございます。

多分、これからいろんな形でこの議論が広く展開されると思いますが、ぜひ、青山先生も、この点については、都政の場でさまざまにご苦労をされていると思いますが、どこが基本的に景観というものを担うのかということ、ぜひ、ご出席の皆様方にも考えていただきたいと思います。そういうふうに私は考えておりますので、ごあいさつにかえまして、私たちの考え方を申し上げまして、ごあいさつをさせていただきます。

本日はどうもありがとうございました。（拍手）

第1部 司会 区長さん、本当にありがとうございました。

いろいろとお話ございましたけれども、本日はこれから二つの講演がございます。中にちょっと休憩を挟みますけれども、かなり長時間にわたるのかなと、こんなふうに考えております。もし、その間ご気分がちょっとすぐれない、そういう方がおいでになりましたら、今、場内の中に腕章をしている方がおりますので、そちらのほうに申し出ていただければ、それへの対応をさせていただきますと、こう思っております。よろしく願いを申し上げます。

それでは、第1部の講師の方のプロフィールでしょうか、簡単にご紹介をさせていただきます。

きたいと思います。

第1部のほうは、犬養裕美子さん。今、こちら、向かって左手のほうにおいでになる方でございます。この方は東京都生まれでございます、今、東京都に在住されております。上智大学の学生時代から、何か情報雑誌等に掲載いたしますために飲食店等々に足を運んで、お店を訪問したのは約1万店を超える、大変すごいパワーの持ち主でございます。現在は、レストランのジャーナリストとして、日本を初め、欧州、米国、そしてアジア各国など、世界のレストランのいろんな事情、そういった食文化の事情を取材をして回って、男性誌、女性誌を問わず、多数の雑誌に今執筆されている方でございます。また、大変料理の中に深いものがございます、何か出演等も多くて、『ソロモン流』や、『魂のスプーン』というような番組の中の審査員で活躍をされていると伺っております。

本日はこの皇居周辺に食を楽しめる場所やそういった魅力あるものをつくれるかどうか、そういったものに対してご講義をいただきたい、こう思っておりますので、ひとつよろしくお願ひ申し上げたいと思っております。

なお、この件に関して、講演が終わった後、きょうご出席の皆様方に、何かもっともっと詳しい中身を知りたいんだというようなご質問等々がございましたら、遠慮なく申し出ていただければと思っております。その時間も設けてございます。ひとつよろしくお願ひ申し上げたいと思います。

それでは、犬養様、ひとつよろしくお願ひいたします。（拍手）

犬養講師 今ご紹介にあずかりました、レストランジャーナリストの犬養裕美子と申します。今、簡単にご紹介をしていただいたんですけども、簡単に言うと、本当に、レストランに行って、そこで食事をし、そのお店が紹介するにふさわしいのかということ判断した上で、実際にお店のお話を伺ったり、写真を撮る手伝いをしたりして、原稿にし、雑誌の中で書かせていただいております。ですから、私が今ここで、レストランジャーナリストが皇居の景観って、一体何なのというのが、ちょっと、皆さんの中にすごく疑問として挙がっていらっしゃるんじゃないかと思うんですけども、たまたま、中村つねお議員とお会いする機会がありまして、私が食の話をするのとあわせて、ちょっと考え方がおもしろいということと、それから、私、今、千代田区民です。まだ6年目の新米の区民ですけども、ぜひ、千代田区のためになるということでお話をいただけないかというお話を伺いまして、いやあ、新米に何が話せるかと思いましたが、私が世界で見聞きしたことと、それから、今千代田区にいて、実際、実を言うと、ランニングをしているんです。マラソンもしているんです。ですから、ご存じのように、皇居の周り、週3回は走っておりますので、こんなに身近にある皇居のことを、何か私にもお手伝いができればと思ひまして、非常に僭越ながら、皆様の前でお話をさせていただくことに決めました。

ですので、ちょっとの間、本当につたない話ですけども、ぜひ、皆さんに、何かしらのいいヒントを与えられることを願って、お話をさせていただきたいと思ひますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

実際、私も区民になって、皇居の周辺というのを、走る場所としてとらえておりましたので、実はこのお話をいただくまでは、走ってばかりで、ずっと左側に皇居を見ながら走るの、左側だけで感じていたんですね。あらっ、これはちょっといけないなと思ひまして、右回りに回ってみたり、坂の上で立ちどまってみたり、いろいろな方向から皇居を見

る、発見しようという気持ちになりまして、見ることにしてみました。実際、千代田区にお住まいの皆さん方がどのくらい皇居に来ているのかなというのも、非常に気になりました。こういった都市の中のそういう歴史的な地所というのは、自分の身近にあると、なかなか気がつかないのではないかなと思います。きょうのお話も、景観について考えましようというお話だとは思いますが、実は皆様方がすばらしい宝物を持っていらっしゃるということをもう一度考える機会でもあるのではないかなと思います。

私の、毎日というか週の中のその3回、4回のマラソンの練習で皇居を回っているときの感想を申し上げますと、ここ数年のランニングブームというのは、もう皆さんご存じだと思います。毎日のように人が周りを走っていますし、夕方の6時以降になりますと、オフィス街からいろいろな方が、女性が非常に多くなっておりまして夕方6時以降になると、団体で、それぞれいろいろなエリアからスタートを始めて、その周回の中で、団体で走っていたり、ひとりで走っていたり、いろいろな方がいらっしゃると思うんです。それで多分10時ぐらいまでは、あの皇居の周辺というのは非常ににぎわっています。

ご存じの方は、何でこんな暗がり人が走っているんだろうというふうに、なぜ走るんだろうというふうに思われるかもしれないんですけども、実際には、都会の中でとまることなくずっと自分のペースで走れる場所というのは、あそこしかないんですね。ですから、非常に、皇居のあの周りというのは、ランナーの聖地と今言われているんですけども、そういう場所にも今変化していると思います。

こういったすばらしい場所にあるので、もちろん自然を見ることが、まず私たちに、自然を感じる場所として皇居はあると私は思っているんですけども、ちょうど今の時期は紅葉が始まりまして、非常に木々が色づきまして、ちょうど、半蔵門のほうから、夜景をバックに見る紅葉というのも、すごく私は好きな景色なんですけれども、そう考えてみると、どこの場所を見ても自然とそれから都市がバックになった、そういう風景を眺められると思うんですね。

非常に、一つ一つが絵になるものですから、観光客の方は皆さんそこで立ちどまって写真を撮るわけですけども、実際は、歩きながらちょっととまって、歩きながらちょっととまってということを繰り返して、皇居と接しているのに私はよく会うんですけども、もうちょっとのんびりと、じいっと見ていられる場所がないかなと。非常にそれは相反することだと思うんですけども、私たちはすごいスピードで、皇居の周りをぐるぐるぐる走っているわけですね。のんびり歩いている方とぶつかりそうになることもあって、非常にそこも問題視されているんですけども、歩きたい人と走りたい人と、それから急いでいる自転車の方が、今この道をだれがとるかみたいな、そういう、ちょっとした狭い場所になると、どちらが先に足を踏み出すかみたいな、そういう、ちょっとした攻防も、その場ではよく見られるんです。これは、一生懸命、今、周りをすごく整備されているように思うんですけども、どこかにそういうスポット的な、見られる場所がない、あるいは回避する場所がないというのが非常に危険でもあり、それから、いろいろな目的に使われる方にとっては、まだまだ、単なる通路でしかあの周りはないなと。整備はされているけれども、通路としての、機能的な面だけを考えられてつくられた場所だなというふうに思います。ですから、これから私たちが考えるべきことというのは、その機能として、往来としての道ではなくて、そこにとどまって、何かをすることができたり、何かもっと感

じることができる余裕のある場をつくるのがすごく大事ではないかなと思います。

きょうはその皇居周辺をじゃあどうしましょうかということをお話ししたいと思うんですけども、実際、千代田区という場所柄を見ると、実は私が6年前に千代田区民になったときというのは、もともと目黒区民だったんですけども、一体どこからどういうふうな千代田区にきたいと思ったかという、やっぱり、東京のど真ん中ってどんなところだろうという、非常に興味がありましたし、それから、まず第一に皇居があること。それをすごく頭の中にイメージをして引っ越してきたんですけども、実際、住居として住んでみると、非常に静かな場所であり、それから、周辺に歩いて回れるところがたくさんあり、皇居を中心として、そのまちが、皆さん、全然イメージが違うエリアなんですね。丸の内、千代田区、千代田区といえば丸の内という東京駅の玄関口には、もう、非常に開発をされた、すばらしいビルがたくさん並んでいますけれども、逆に言うと、神田の下町的なところ、まだこういう感じでまちが残っているところがあるのかとか、すごく変わりましたあの秋葉原の周辺とか、それからまだ、神田神保町の周辺、やっぱり古書店街もそうですけれども、それ以外にもたくさん人がいらっしゃる場所が、スポーツショップもそうですし、いろいろなものがあります。麹町、市ヶ谷の周辺というのはオフィス街で、平日はにぎやかですけども、夜になったり、あるいは土日になると全く人がいなかったり、それからまた、国会の周辺というのもそうです。何かイベントがあるときに人がたくさん集まってくるというところなので、ふだんはすごく静かな場所だと思うんです。何か静と動が共存しているエリアだなというふうに、非常に思いました。

レストラン的な観点で見ますと、飲食店がある場所といえば、やはり丸の内のビルの中。それから、神田の、昔からやっていたらっしゃるお店。神田の特徴というのは、私の頭の中では、すごく思うんですけども、専門店が多いんですね。非常にその専門店のあり方が特徴的だなと思います。とんかつのお店であるとか天ぷらのお店であるとか、それから、鰻だとかあんこう鍋のお店とか、非常にポイントがはっきりしている。非常に、そこに、それだけに歴史を重ねた重みというのがあって、それぞれ特徴のあるお店がきちんと残っていらっしゃると思うんですね。

今、実は飲食業界の中で言われていることというのは、レストランというのは、外食、飲食ビジネスというふうに言われて、フードビジネスという言葉が非常にはやっています、いろいろなチェーン展開をすることによって、利益を上げていく。いわゆる効率的なレストランをつくっていただくことで、利益を上げましょう、どんどんチェーン店化して数をふやしましょうというのが、ここずっと続いてきたわけです。ところが、ご存じのように、去年の9月、リーマンショック以降、飲食店というのは非常に厳しい時期を迎えていますよね。実際に、縮小してきたり、あるいはお店をなくしていったりというのは、そういう飲食ビジネスほど、対応は早いんです。対応が早いというのは、やっぱり、それはけがをしたくないからだと思うんですけども、非常にその対応が早く、飲食店の業種を変えてみたり、それから、数を減らしてみたり、ぼんぼんぼんぼんやっていくわけですね。そこにあるのは非常に効率がよかつたはずのレストランなのに、実際には非常にもろい面も見せていくと思うんです。ところが、逆に個人のお店というのは、簡単には、やっぱり、そんな商売がえをすることはできませんよね。実際に、そうだからこそ、一生懸命、もうちょっといいものを出そうか、じゃあ、値段を変えようか、メニューを少しふやしてみよ

うか、あるいは、減らしながら、どういうふうにお客さんに喜んでもらうかということを考えていると思うんですね。ですから、対お客さんに対する対応は非常に早いけれども、我慢をし続けるといういいところがあると思うんです。神田であるとか、それから、神保町の周辺のそういう個人のお店というのは、そういうところをくぐり抜けてきたという精鋭のお店が多いので、非常にそのお店自体のポテンシャルというのが下がらない、あのお店に行けばあの人がいるという、お店の方の顔もちゃんと見えている。アナログな感じが逆に、今は耐えられるお店になっているのではないかなと思うんですね。どんな開発でも、飲食ビジネスというと必ず大きなお店を持ってきて、ぽんと出して、そこではやらせて、3年、5年で、基本的には回収、資本投下を回収するというような、そういう考え方でつくられたお店が多いんです。ところが、個人のお店は、回収なんかしたって、その後まだまだ続けなければいけないわけですよ。続けるための工夫というのが、個人の方のお店の一番いいところで、それが一番、この時代には強いのではないかなと思うんです。神田周辺のお店とかは、やはり、そういうお店がしっかり残っておりますし、それはある意味、歴史的なことを考えた上での観光資源にもなると思うんですね。

ちょっと今、皇居から離れてはいますけれども、実際、私たちが皇居に望む、皇居周辺に望むことというのは、先ほど言った、どこかとどまれる場所、皇居の余韻を楽しめる、あるいは、皇居そのものを楽しんだ後に足を運んでいける場所というものをつくっていく、あるいは誘導していくことは、非常に大きな意味があって、東京のまちを線でつないでいく、点と点で観光するのではなく、線でつないでいくことができれば、よりイメージは強くなるのではないかなと思っています。ですから、飲食店の頑張りというのも、実は千代田区の中では大きなウエートを占めるのではないかなと思っています。

実際に、今の時代のコミュニケーションというのが、昔ながらのお店のほうが強いと言ったのは、顔を合わせたフェース・トゥー・フェースのサービスができたり、それから、それを期待できるお店ということなんですけれども、じゃあ、これを皇居の周辺に一体どういうふうを活用していけばいいのかということなんですけれども、実際にはそのお店に動いていただくわけにはいかないの、皇居の周辺を、ちょっと今私のほうで思ったところというのは、皆さん皇居というと、本当に皇居の周回のところだけを思いますけれども、北の丸公園とか千鳥ヶ淵、あそこの場所というのが非常にいい場所なのにもかかわらず、なかなか見過ごされているのではないかなと。非常にそこが残念でならないんですけれども、もちろん千鳥ヶ淵は桜の名所ですから、区民の間でも、そういうお便りにはもちろん載っていますし、テレビでも再三、やっぱりその季節には随分と取り上げられると思うんですが、あそこにやはり、何とか、四季を通じて皆さんに来ていただくようなことができないか。

今、千鳥ヶ淵のあの周辺は物すごく整備されて、きれいになったのをご存じでいらっしゃると思いますよ。非常にきれいになって、ボート場もきれいになって、少しスペースがあって、そこでお休みできるようになっているんですけれども、あそこに何とか、カフェであるとか、カフェレストランであるとか、一つもうちょっと余裕のある施設があってもいいのではないかなと。昔のことをお話を伺いましたら、あの前にはやはりホテルがあったところというのは、そこの2階の窓から見る夜桜がすばらしくよかったと。やっぱり、お酒があって桜を見るというのは、日本人にとっては物すごく楽しみであり、それは世界じゅうど

こでも同じですけれども、いらした方にとっては、お酒があったらなあというのが、実はあの辺の一番足りないところでもあり、飲食店があれば、それはかなうのではないかなと思うんですね。やはり、花見の時期、あのあたりはお酒を持ち込んではいけませんという、ちょっと上野と違うところが逆に千代田区らしくて、非常に秩序が保たれているいい場所だなと思うんですけれども、レストランとかカフェであれば、その中でお酒を楽しむこともできますし、食事をするというイベント的なこともできると思います。ですから、千鳥ヶ淵のあの周辺であるとか、北の丸公園の中も、実は施設があるんですけれども、もう一步、もうちょっと開かれた感じの、今はどちらかというところと休憩所という感じの施設が北の丸の公園の中にありますけど、あそこがもう少し名所になるといいんじゃないかなと、私は思っています。

以前に住んでいたたりそれから仕事をしていたときには、よく代々木公園を走っていたんですけれども、代々木公園の周辺というのは意外に飲食店が多いんですね。それで、先ほどちょっとご紹介いただいた『ソロモン流』というテレビで、私がどんな一週間を過ごしているかみたいなことをテレビでレポートしていただいたんですけれども、そのときも、代々木公園で走った後、すぐにその近くにある中華屋さんで大瓶のビールを飲み、餃子を食べることがすごく楽しみ、まあ、それは実際に楽しみで実際にやっていることなんですけど、そのことが放映されたら、もう、だれも彼もが、犬養さん、走った後に必ず大瓶ですかと言われて。はい、と言うと、そうなんです、そんないい場所があるんですねと言って、その後にそこのお店にちゃんと行列ができたのに、私もテレビの影響力のすばらしさというには非常に驚いたんですけれども。やはり、公園の中だけじゃ、みんなちょっと物足りないんですね。ご存じのように、代々木公園も非常に広くて、公園のいろんな施設があって、ただそこで座ったりはできますけれども、飲食が少ない。それは公園の性格上当然だとは思いますが、だからこそ、その周辺に飲食の施設というのがとても大事なんじゃないかと、酒飲みであり、食べるのが大好きな私にとっては、自然があればおなががすく。おなががすいたら食べたら飲みたいという、皆さんもそうだと思うんですけれども、同じレベルで考えると、わかりやすいんじゃないかと思うんです。ですので、ぜひ、カフェの提案というのは、私からはしたいなと思います。

同じくそれは、皇居の周辺、皇居のど真ん中じゃなくても、ど真ん中は無理ですね、公園のところは構わないんですけれども、そこから、先ほど言った神田のような街並み、それから、例えば、今実を言うと、一番町とか五番町とか、裏の九段のほうというのは、意外とお店が少なかったり、あるいは、お店がかつてあった場所がクローズしている、使われていない場所が非常に多く目につくんです。私は、非常に、若い人たちが動いてくれたり、若い人たちだけではなくてお年寄りも行けるようなカフェというのは大事だと思っ  
ていまして、日本でカフェというと、物すごくおしゃれな感じで、パリの感じとか、そういうふうに思われるかもしれないんですけど、単なる茶飲み場とっていただきたいんですけれども、それは一番開かれた、地域に密着した、開かれた場所になるといいと思うんです。

ですから、今使われていない場所を何とか安く使う方法を、持ち主の方、あるいは、もちろん区民の方がオーナーさんでいらっしゃれば協力をしていただければいいんじゃないかと思うんですけれども、カフェをそれぞれ地元の方から、やりたいという方は実際いらっしゃ

と思うんですね。そういう方から、いろいろなアイデアを募って、区民カフェなのか、あるいはどういう名前かはわかりませんが、区民の方が主体になったカフェをつくっていったらどうかと思うんです。それは結局、営業的なことではなくて、人を集めるあるいは人が動くためのカフェというふうに考えていただくと、そこで店を持ったから一生やらなきゃいけないということではなく、期間限定で、Aさんには半年、Bさんも半年というように、オーナーが変わっていく。変われるというのが一番いいことではないかと思うんですけれども、その中でそれぞれの方がどういうふうなカフェが自分ではここでは必要とされているか。あるいは自分ができることですね。和菓子をおつくりになることがお上手なおばあちゃんが作るお団子とお茶だけでもカフェはできます。それから、ここと同じようにパンをつくったり、あるいはケーキを焼くのが大好きという方もカフェは出せますし、それから、今、男性のお料理もすごくはやっているんで、お父さんの作るカレーということでもカフェは成り立つんですね。ですから、ちゃんとした、例えば、まちなかにあるような、ドトールみたいな、チェーン展開したシステムティックなものをつくろうと思ったら、絶対にできないと思うんですけれども、手づくりだからいいと思えるカフェというのは、それがカフェのよさであり、それをまちの中に点在させるというのはいいことではないかなと思うんです。

私がすごく好きなカフェが信州の佐久というところにあるんですけれども、佐久というのは、ご存じのように鯉の名産地で、実際それ以外には野菜の生産地であり、実は観光地では全くないところなんですね。佐久の望月にあるYUSHI CAFEという、男の子がひとりで始めたカフェがあるんですけれども、そのカフェは、おじいちゃんのおうちを、そのまま、変えてしまうのではなくて、きれいに、使えるようにきれいに、昔のままをうまく使って、いすを置き、テーブルを置き、その村でとれる野菜、お母さんがつくっている野菜だったり、その村の周辺の人がつくっているお野菜を使ってスープを出したり、それから、豆で、自分でコーヒーを焙煎して出したりという、非常に小さな規模のカフェなんです。ところが、そこがもう今4年目になるんですけれども、毎日お客さんがいっぱいいるんです。

佐久って、全く人がいないところなんですね。歩いている人は見たことない、車でしか人が移動していないんですけれども、おばあちゃんが病院に行く前に寄る、終わってから寄る、おじいちゃんが農作業の後に寄る、それから、公務員の方も仕事の途中に寄る。その地元の方の利用頻度がすごく高いんです。その地元の方に合わせて値段も安くしているから、毎日でも来れるという。コーヒー1杯を飲むと350円なんですけれども、その値段だったら、毎日来てもいいかなと思ってくださるお値段だったと思うんですけど、彼はそれを周りの人に、この辺はね、それぞれのおうちに行ったときに、みんなだれだって茶を出すでしょ、と。下手すると、昼飯も出してくれちゃう。そういう土地柄でお金をもらってカフェをやろうなんて思ってもだめだよ、と諭されたそうなんです。ですけれども、でもその350円というのは、お店をやっていく上では、もう、ぎりぎりですよ。実際、自分にとっても、そこで人にできることはすべてやりたいというので350円にしたんですけれども、逆に、その村の人たちというのは、350円払って、お金を払っても飲みたいたお茶がある。それはお茶だけじゃなくて、実は、裕士君という、高塚裕士君の人柄にひかれて、そこに人が集まっているわけですね。コーヒーがおいしいのはもちろんですけど

も、裕士君に会いたい、裕士君のところ集まってくるほかのお客さんと話もしたいということで、ひとり暮らしのおじいちゃんとかおばあちゃんとかも来るし、お孫さんを連れてくる方もいらっしゃるし。週末になると、今度は、その村じゃなくてその周辺のところから、若い女性たちが、読書をしたいからとか、何かのんびりしたいからとか、そういう理由で、やっぱり車を飛ばしてくるんです。この間長野に行ったときに、長野の女の子も、あ、私、YUSHI CAFE、大好きなんです、40分かかりますけど車で行きます、と言われて、すごいなこのカフェは、と思ひまして。

実際、そういうお店というのは、人の力で集まるカフェ、カフェ自体は人の力で集まる場所だと思えば、完璧なお店をつくるよりかは、逆にその人がどれだけやりたいと思っている気持ちがあらわれているかのほうが大事だなというふうに、すごく実感させられた例なんですね。多分この千代田区の中にも、昔は神保町であるとか、名曲喫茶も今でももちろんとありますし、古いカフェ、喫茶店ですね、ミルクホールという名前のお店もありましたけれども、やっぱり、皆さんが気軽に扉をあけていけるお店というのが、実は前からあったと思うんですね。そこがだんだん少なくなってきたり、目立たなくなってくる、あるいは、実際、本当にお店を閉められた方もたくさんいらっしゃると思うんですけども、逆に、今の時代だったら、ちょっとこう、皆さんが助けてくだされば続けていけるところがあったり、あるいは、新しくやってみよう、あるいは、その場所を借りてお手伝いしたいと思う方がいらっしゃると思うので、そういうカフェが幾つかつながってくると、千代田区というのは、都市のど真ん中であって、カフェの村があるらしいとか、そういう都市伝説になると、私はいいんじゃないかなと思っているんですね。

人が、やっぱり、観光に来たときに、どこかとまれる場所、ストップできる場所というのは一番求められていると思うんですけど、何もそれがすてきな、華やかなレストランである必要は全くなくて、それよりも、やっぱり、人の顔が見えて、お話ができて、また来ようと思わせるようなキャラの立ったカフェをぜひ、皆さんの力でバックアップをしてあげる。みんなでバックアップをしていけば、ひとりでやることはできなくても、できるんじゃないかなと思っています。それを、逆に言うと、こういった議会の中で、何か議題に取り上げるだけでも、次に考えられることがあるのではないかなと思っています。

一つは、そういう飲食する場所をつくることというのが一番早いというか、一番、目につきやすいとは思いますが、もう一つは市場ですね。こちらの千代田区でもやっていますし、今、東京の各地で盛んに、マルシェという言葉になって、地方からの産物を集めた市場が取り上げられるようになってきていると思うんです。友達に聞いたら、今はマルシェと言っているけどこの間までいばらぎ市だったよみたいな、名前を変えたら、いきなりマルシェですごくおしゃれになったために、マスコミでの取り上げられ方も違うし、それから、女性が来る、あるいは、家族連れで、東京に住んでいる人も遊びに来る。地方の人が来るんじゃなくて、逆に言うと、東京の中同士で観光しているというイメージの持てる場がマルシェになっていると思うんですね。それを考えると、中村議員にもご意見を伺って、なるほどと思ったんですけど、とにかく千代田区は東京の中心であり、あるいは、全国から人が集まってくる中心地にあるんだから、ここで全国とつながっているという実感が持てるんじゃないかと。そう考えると、マルシェ、市場を立てるというのは、非常に、東京と地方がすべてつながる道も見えてくるような気がするんですね。

今、やはり、地方の生産者の方が、よく、最近はもう、農家に関する雑誌が物すごく多いと思うんです。若い人たちが農業を始めるにはどうしたらいいのかということで、ITにいた人たちがみんな転職して、農家になって、向こうでお野菜をつくって、インターネットで売る。インターネットで売るだけでは、やっぱり、実は売れないんですって。やはり、私が若い生産者の方にお会いしたときに、とにかく東京に場所があれば持っていきますから、そこで売りたいんです、どこかそういう場所がないですか、と。実際に小さいギャラリーを借りて、日曜日にギャラリーがお休みのときに野菜を持ってきて並べると、どこからともなくその周辺の人たちが集まってきて、そのお野菜を見て、実際、値段の交渉ということもして、これ幾らで、じゃあ、まとめてこれでいいですよとか、これは何という野菜ですかという話をしながら、皆さんと一緒に、楽しく、わいわいやっているんですね。マルシェといっても、小さいギャラリーでもいいんです。何でもかんでも、日本人というのは、きちんと整えないとやっちゃいけないみたいな気持ちになるかもしれないんですけど、どこかあいたスペースが一つあれば、そこでマルシェをやってもいいと思うんです。それが広がっていくと、じゃあつながって、大きな市になるのかもしれないし、小さなプチマルシェがあることで、大きなマルシェへの道もできると思うし、まずは余り形にとらわれないで、何かスペースを提供してあげること呼びかけてもいいのではないかなと思うんですね。

食というのは、今、盛んに安全性が言われていますし、皆さん実は生産者の顔を見たいという、テレビでさんざんやっているの、どんな人がどんな野菜をつくって、だからその野菜が安心である、あるいはおいしい、それから、つくる人も、どんな人が食べているからいいかげんなことではできないというふうに思う。やっぱり、フェース・トゥー・フェースの出会いが食の出会いじゃないかなと思うんです。その場所が、今、実は、やっぱり皆さん探していらっしゃるの、千代田区にあつたらいい。それがなおかつ、皇居の周辺であれば、ここを5キロ回っている間に、いろんな産地の野菜がちょこちょこどこかで見えたら、おもしろいんじゃないかな、野菜畑と言ってもいいかもしれないと、ちょっと思うんですけども。何か回っていくことによって、皇居周辺のお散歩がてら、いろんな野菜を見ていくことができ、あるいは、いろんな地方の人に会うことができたら、やっぱり、東京のど真ん中ってすごいところなんだなという気持ちを、皆さん、印象で持たれるんじゃないかなと思うんです。ですから、そこは、何か場所を提供してあげられるのは、先ほど先生のお話にありましたけど、区じゃないかなと。国がということよりも、区民が直接場所を提供してあげる、あるいは、そういう提案をしていけばいいんじゃないかなと思っています。

それから、あともう一つなんですけども、そのマルシェにかかわって事を考えていったときに、私たち女子としては、実はお花の市場があればいいなと。食べる市場は今東京にたくさんできているんですけども、花の市場があるといいなと思っているんです。というのは、パリに行くと、お花だけの市場というのが立つんですけども、食卓に花を飾るということが非常に、向こうでは、花が安いこともありますけれども、一般的だと思うんです。とても通りが華やかできれいで、四季の花が咲き乱れているような風景というのは、やはりそこに人を呼ぶことができると思うんです。今、東京でそう言われてみると、多分植木市とか、そういうのは見かけるんですけど、お花の市場って、大田のそういった

ちゃんとした、プロ向けのしかなくて、一般の、道で花がたくさん並んでいる風景というのはちょっと見たことがないので、これをぜひ1番にやってみたらどうかと。何でも1番というのは一番最初ですから一番注目を受けますので、先に、私言っておきますけど、とにかく早くやりましょうというような意味合いで考えれば、お花の市場は、皆さんの目を一番楽しませて、気持ちも豊かにしてくれるんじゃないかと思うんですね。

実際、どうやったらできるのか。例えば、商店の方とバッティングするんじゃないかとか、いろいろあると思うんですけど、逆に、その場所に出店をしていただくこともできるでしょうし、それから、すごく安く出していただくためには、もう、あさってには枯れるかもしれないとか、そういうお花でもいいと思うんです。とにかく、その花があることでまちが明るくなる、道が明るくなること、その花を持って帰る人たちがその途中も楽しめること。私も、食べるだけじゃなくて、美しいものを見るというのも、すごく大切だし、自分にも、美しいものを見たいと思っています。ですから、やっぱり、食もそうすけれども、全国のお花とか、花に関するものが何か、一つ、目をひくという意味で、いい起爆剤になればいいのではないかなと思っています。

こういったとりとめのない話なので、これが本当に役に立つとはとても思えないんですけども、ただ、やはり、今、マスコミの中でそうやって、カフェであるとかマルシェであるとか、そういうものは、若い人たちだけに対して取り込みを行うような、個人的なお店はたくさんあると思うんですけども、そうじゃなくて、もっと大きな年代の人たち。特に、やっぱり、今実際50代、60代の方、お散歩したりということでも、ちい散歩じゃないですけど、非常に楽しみ、楽しまれていると思うんですね。そういう方たちが楽しめる場所ということで、年代にかかわらず楽しめる場を提供してあげられることができたならば、このエリアでは一番いいのではないかなと思っています。

実際、こういったことがこの後どういうふうに区民の皆さんから実現していくのか、議会の皆様から実現していくのか、わからないんですけども、もしそういうことがあれば、どうか、やっぱり、区民の手でやることを、皆さん自身でやることを考えていきたいと思えますし、結局、どこかに、どこか企業に任せるとか、どこかの会社に任せるというやり方をしている限りは、やっぱりフェース・トゥー・フェースのお店あるいは食、あと人間とのかかわり合いというのがなくなってしまいますので、いいモデルケースになるように、皇居周辺からフェース・トゥー・フェースのお店づくり、場所づくりをしていければいいなと思っています。

非常に簡単なお話で、何のお役にも立たないかもしれませんが、ぜひ、何となく皆さんの頭の中に、マルシェがあったり、お花の市場があったり、そこで途中にとまってお茶を飲む場所というのをイメージしていただくと、自分にとって、あ、こういうところがあつたらいいなということを実現できるんじゃないかなと思います。どうぞ、皆さんの参考になったかどうかわかりませんが、お考えいただければと思います。

すみません。きょうはどうもありがとうございました。（拍手）

第1部 司会 本当に長時間にわたり、ご講義ありがとうございました。

それでは、先ほどちょっと申し上げましたけれども、今ご講演いただいた中身に関して、何かご質問、ご質疑等がございましたら、ひとつこちらの先生のほうからお答えさせていただきますので、できましたらどなたか、ございましたらお手を挙げていただければと、

こう思っております。どうぞ。すみません、ちょっとお立ちになっていただけますか。

参加者A ……………の…………をやっております、……と申します。

今、あなた様がおっしゃったレストランみたいなものは、私は基本的には反対です。千鳥ヶ淵のところには、昔、ダイヤモンドホテルがありまして、非常に（「フェアーモント」と呼ぶ者あり）フェアーモントが あって、それから、そこにレストランがあって、非常によくて、恋愛していた夜ほど行きました。という思い出のあるのもございます。ただ、あそこは住むための場所で、私はいいと思うんです。あえて、お茶を飲むとか、やれ何とかという場所をつくらないほうが、やはり静かで、そしていい場所、私はそういうふうに考えております。ですから、外から来た人にすれば、ここにレストランがあればいいなとか、いろいろあるけども、やはり、私は、70年間ここに住んで、もう、マラソンランナーも、ジョギングが今こんなブームになる前からやっていて、もう、あの周りは、私の出る場がないのでやめていますけれども、そういう形もあるもので、私としては、あえてああいう静かなところは静かにしておいて、それが千代田区の建前だろうというふうにしたほうがいいというふうに考えております。

以上でございます。（拍手あり）

犬養講師 ありがとうございます。私も本当に、静かであるということはこの千代田区の宝だと思いますので、非常に大事なことだと思うんですね。ただ、逆に言うと、皇居の周辺は静か過ぎるところが多いような気がするのです。どこか一つには、何か目印になるような、やはり、前、フェアーモントがあったときには、皆さん、その思い出のとおり、そこが恋愛の場になったり、いい思い出として残った場所があったかと思うんです。それを新たに考えることもできるし、その静かなやり方というの、もしかしたらレストランとして考えるのであれば、にぎやかなレストランをやるのではなく、静かなレストランというの、どこか、ご考慮いただけることを考えていただいたらどうかと思いました。

第1部 司会 それじゃ、ちょっと貸していただけますか。

参加者A 静かなレストランも結構ですけども、今、申しましたように、周りに、40階、50階というビルが建って、そこからのぞかれるんですよ、現状として。それなのに、また、下からのぞこうとか、そこが……して、それは余りにも皇室に対して失礼ですよ。あの高いのだって、問題があるんですよ、本当は。あそこに、皇居がなくなっちゃったら、石原さんはね、ナショナルパークにしようとか何とかって、皇居を追い出して。ということを行っているようですけれども、余りに、皇居があるから千代田区の価値があるので、そこはまた何か価値が半減しちゃう。そして、それに対して、あんなに周りを高いビル。それで、個人の家が、周りに高いビルは反対、反対と言うけど、ああいうビルが建って、それは……なって、これはやっぱり、皇室に対して、非常に窮屈な思いをさせている。ですから、ご存じのように、宮内庁病院も、今度建てるパレスホテルの二十何階からのぞかれると、見えてしまうというようなことも、新聞記事に載っておりますよね。ですから、それだけ、皇室の方はどう考えているか知らないけども、私は我慢に我慢を重ねていると思っています。それなのにまだ、今度はレストランをつくらうなんて、私は反対です。（発言する者あり）（拍手あり）

第1部 司会 ありがとうございます。よろしいでしょうか。お礼を言っているのか、ちょっとわからなくなってきましたので、申しわけございません、先生、どうもありがと

うございました。

あと、もうお一方、もし、どなたかございましたら、よろしく願いいたします。お一方で、ひとつ、時間の関係もございますので、よろしく願いいたします。

参加者B 岩本町は千代田区のチベットと言われるそのように、私たちは思っております。実は、今、岩本町かいわいが中華料理屋さんがかんどんふえております。実は私も、昭和の時代には中華屋をやっていたんです。ほとんど、この中華屋をやる方、中国人の方が恐らく経営されていると思うんですよ。それに伴って、景観ではございませんが、住まいがその店のそばのビル。ところが、国民性の違いというもので、一つの、例えば、物を干すみ閉しましても、日本人はきちっと畳んで干すというのが……キョウにやっていますね。景観的にも良くない、こういうことは我々が言うことじゃないんですが、ただ、先生がほうぼうのレストランを歩いていらっしゃるというのに、なぜ岩本町かいわいに中華屋ができたのか。この間実はテレビ局から取材を受けたんですよ。そういうのって、私は住んでいたってわかりません。果たしてオーナーが変わっているかどうかもわかりません。それはそれぞれの、自分のところの生活がかかっているから、我々それ以上言えませんが、ただそれを一つ、調べてください。（発言する者あり）

第1部 司会 お調べになることがあるのかよくわかりませんが、今の関係、ひとつよろしく。

犬養氏 はい。実際、岩本町に中華屋さんがふえてきているということは、実は感じてはいたんですけども、そんなにふえているんですね。九段のほうからも、九段、麴町も、なぜか知らないけど、同じような中華の、多分中国人の方々がチェーンでふやしていらっしゃるんだと思うんですけども、どこかそれは感じておりましたので、その、なぜなのかということは、私の宿題として調べさせていただきます。いいお題をありがとうございました。

ただ、岩本町は、カフェが最近、実は、裏の倉庫のほうとかに、若い方がちょっと変わったお店を、カフェを大分出されているようなので、実はあの辺が私はカフェ村になってもいいのではないかなと思っています。

第1部 司会 はい。この程度でよろしいでしょうか。申しわけございません。きょうお二方のご意見、これから、関連モニターしておりますので、また参考にさせていただきますたいと、こう思っておりますので、ひとつよろしく願いを申し上げます。

どうぞ、おかけください。

時間の関係もございますので、きょう、質問はこの辺で打ち切らせていただきますけれども、いかがだったでしょうか。きょう、この第1部の講演。（拍手）ありがとうございました。大変、大好評ということでございます。

それでは、そろそろお時間となりましたので、最初の講演はこの辺で閉めさせていただきますけれども、改めてもう一回、犬養様のほうに拍手をお願いしたいと思っております。ありがとうございました。（拍手）ありがとうございました。

いや、ほんと、最後はちょっと、感激をいたしました。ありがとうございました。

私の司会は、もっとやりたいんですけどここまででございますので、第2部からは小林やすお議員のほうで担当いたしますので、よろしく願い申し上げます。

先ほどちょっとお約束しておりますけれども、こちらにも書いてございますように10

分間の休憩をいただいて、その後に、3時20分から改めてこの席 あ、そうですか。ごめんなさい。3時25分ということで10分間のお時間をいただいて、以後に進めていきたいとお思いますので、その前にこの席にお戻りいただければと思っております。

本当にきょうはお疲れさまでございました。ありがとうございました。小林（や）さん、ひとつよろしく願いいたします。（拍手）

午後3時13分休憩

午後3時25分再開

第2部 司会（小林やすお議員） そろそろ再開をいたしたいと思いますが、お隣の方はいらっしゃいますでしょうか。バスではありませんが。よろしいでしょうか。

ただいまの犬養先生のご講演、大変、いろんな意味で参考になる講演でございました。

それでは、これより第2部の開会といたします。ここからの進行は、先ほどの林連合会長さんに引き続きまして、議会運営委員会の委員長をさせていただいております小林やすおがやらせていただきますので、よろしくお願い申し上げます。（拍手）

それでは、早速ですが、2回目の講演に当たりまして、本日の第2部の講師の方のご紹介をさせていただきます。

青山侑様は、昭和42年に東京都庁に入庁され、高齢福祉部長、計画部長、政策報道室理事等を歴任後、平成11年から15年まで、石原慎太郎都知事のもとで、東京都副知事を務められておりました。

平成16年からは、明治大学公共政策大学院の教授に就任し、郷仙太郎のペンネームで著書も多数出版されております。

先ほど同様、講演の後に質疑応答の時間も設けてありますので、遠慮なくご質問をいただけますようよろしくお願い申し上げます。

それでは、青山先生、よろしくお願い申し上げます。（拍手）

青山氏 どうも、皆さんこんにちは。青山です。よろしくお願い致します。

きょう、この議場、これ、すごくいいですね。私が長くいた都議会の議場というのは、こういう、こっち側に執行機関側が座っていて、議員さんが向こう側に座っていて、被告席なんですよ、まるで。さっきスライドで拝見しても、何となく斜めになっていて、率直な意見交換ができるという感じで、私はこういう千代田区議会のやり方というのを全国に発信していただくといいと思いますね。それから、きょう、ここに来させていただいたときも、区議会の議員さんとか地元の町会の役員さんとかが、一緒にいろいろ、会の運営をなさっていて、すごくいいと思いました。こういう、千代田の人って、人柄のいい人ばかりだから、だからこうやって、世界の中心、日本の中心になるようなまちに、数百年かけて発展してきたんだと、そう思いますね。

私は、きょう、この会では、ここに書いてありますけども、皇居周辺の景観と観光というお題をいただいて、最初に考えたのは、私は専門が日本史人物伝ですから。でいて、都庁に36年勤めましたから、ずっと都市政策を考えてきた。その都市政策の実務の体験というのが日本史人物伝に生きるんですね。いきなり作家になった人に比べて、36年も実務をやると、何でこんなに皇居、すべて皇居が中心なんですよ、あらゆる都市計画とか都市政策は。こんな都市って、世界にないんですよ、大都市で。そもそも、イギリスに行ったらどこに行ったら、スペインに行ったら、王宮ってありますよ。ウイーンに行っ

たって、ありますよ。あるけど、要するに、すべての地図が皇居中心に成り立っているなんていう、そういうところはないんですね。しかも、それは単に権威の象徴とかいうんじゃないなくて、文化とか歴史とかがみんなそこから成り立っているということなので、これを大事にしようという会なので、あ、これは私にぴったりのテーマだなと、そう思って。日本史人物伝からいっても、都市政策の立場からいってもね。

といっても35分ですから、内容を絞ると、私は 太田道灌が、やっぱり15世紀に江戸城をつくったと。ここから始まったわけですけど。それから、徳川家康が、あえてこういう言い方をしますけれども、秀吉によって関東に移封されて、素直に従って来た。政権をとったと、その後。その後ですけどね、政権をとったと。大久保利通が明治維新以来11年間一貫して、事実上の首相の座にあって、着実に日本の体制をつくったと。それから、四つ目に関東大震災、大正12年、1923年。震災があったので、東京は焼けたので、首都は移そうと、そう陸軍が言い出したわけですよ。ここはそもそも海から攻めやすいと。ペリーもここへ来たし、ハリスもここに来たじゃないかという話まで出たわけですね。でも、これは関東平野が日本最大の平野だと。しかもここに根づいた歴史と文化と伝統があると。だからここが首都だ、遷都せずというのを、当時の内務大臣後藤新平が決めた。こういう一連のストーリーというのが、皇居を特別なものにしていただから、私は、景観とか観光を皇居周辺ということで考える場合には、私はこの皇居が持っている特別なストーリーをどう理解するかということから始めるのが一番いいとそう思って、だから私がぴったりだなと、そう思ったんですね。

これは、こういうふうに、例えば、不動産、土地価格の分布図なんていうと、必ず、ね。皇居が中心になるんですよ。売り買いするんじゃない場所が中心なんです。そこから5キロだ、10キロだ、20キロだ、30キロ圏だと。不動産事業者の広告でも、都心から30キロ圏にこの価格とかいって広告するのは、皇居からの距離なんですよ。皇居に通勤する人はわずかなんですけどね。でも、そうなんですよ。そういうふうになぜなったのかということなんですよ。

太田道灌は、上杉家の家老でした。ここで注目すべきは、この1432生まれで1455年に家督を相続したということは、非常に若かったんですね。23歳で家督を相続した。江戸城が完成して、すぐ死んじゃうですけども、その後30年かけて、関東を統一した。これが太田道灌の功績なんですよ。

何で太田道灌は江戸城を始めたかということ、家督を継承したときは、品川の御殿山にいたわけです。この地図の外ですね。こっちのほうにいたわけです。このとき、上杉家の家老として何をやったかということ、この江戸城、最初、品川の御殿山にいたわけですけど、主として、北方を拠点としていた足利氏と、足利対上杉ですからね、この当時の主な戦いというのは、北を攻めようと、攻めないといけなかったわけです。南側に主君がいたわけです、鎌倉のほうに。当時、伊勢原にいましたけど、上杉さんは。したがって、品川にいと、伊勢原にも鎌倉にも近いし、何といっても御殿山、今でも小高い丘ですね。一番いいのは、前に溜池があるわけです、赤坂の。だから、北を攻める場合には、攻めようと思うと、溜池を迂回していかなきゃいけないので面倒くさい。だから、前に出よう。非常に積極策だったんですね。もし御殿山にそのままいけば、前に溜池があるし、御殿山は小高い丘だからいくさに有利なんだけど、だけど、攻めるという積極策をとったわけです。

ね。それで前に出てきて、江戸城を築城して、30年近くかけて関東を平定するというのをやったわけですが、だから、非常に武略にたけていたということは確かなんですね。これが新宮殿ですが、道灌濠というのはこう三つ、上、中、下と、三つあります。ここにちょうど富士見櫓がありますけど、ここにいたわけですね、当時の道灌は。そういう、それがそのまま今来ているというふうに考えればいいわけですが、

このエピソードは皆さん知っていると思いますが、新宿、日暮里、実際、毎日のように馬を走らせていたんですね、彼は。この歌は、狩りに出て、急な雨なので、傘を貸してよと農家に頼んだら、ヤマブキの花を少女が差し出したので、怒って帰ってきたと。こういう失礼なやつがいたと、そう江戸城に帰って言ったら、たしなめられたと。こういう歌があるんですというふうになしなめられた。「実の一つだになきぞ悲しき」で、蓑に掛けたんですと。そう教えられて恥じて、それから勉強したというエピソードがあるんですけど、これはうそなんです。記録によると、少年のころ、鎌倉五山で卒業のときに総代だったという記録が残っていて、非常に勉強ができた。こんな有名な歌、知っていたに決まっているわけですが、でも、エピソードとしては、太田道灌が関東を平定するほど武略にたけているだけではなくて、学問もすごかったということをお願いして、こういうエピソードをつくったんですね。

いずれにしろ、これは一つのストーリーなので、別に新宿や日暮里じゃなくて、もともと太田道灌がいたのは、江戸城から狩りに行っていただけですから。このエピソード自体は江戸城でできたものなんです。関東を平定して平和になったので、主君の上杉さんを、伊勢原から江戸城に来てくださいと言って、呼んだわけです。そうしたら、上杉さんはびっくりしちゃったんですね。

今でも、私たちが吹上の御所に伺うときは、あの道灌濠を見ることができますけど、非常に立派な濠です。それで、随分すげえ城だなと、主君は思ったわけですよ、部下なのにと。しかも、さっきの富士見櫓、今の静勝軒と言ったんですが、その道灌の館で、茶会だの歌会だのをやると、全国からそういうことをやる学問の僧だとか有識者だとかが集まってきた、おれのところよりか、ずっと人が集まっています。

まあ、上司には二通りありまして、部下がすぐれているとやきもちをやく人と、部下がすぐれているとそういう人を部下に持って幸せだと喜ぶ人と、二通りいるんですね、人間には。ちゃんと見分けをしたほうがいいですよ。それが36年、都庁で生きていくコツなんです。

太田道灌に対して、定正はやきもちをやいたわけです。でも、太田道灌が関東を平定してくれたんですよ。最初はこんなだったんですよ。青いところ三つぐらい、岩槻、川越というのは、太田道灌のお父さんが生きていたから、太田道灌が暗殺されたときもまだ生きていたわけです。お父さんが健在だったというのはすごくあったんですけどね。とにかく、やきもちをやいて帰ってきた。そうすると、そこに必ずいるんですね、私のライバルみたいな人がいて、主君に告げ口するんですよ。うん。何か不愉快な顔をして帰ってきたと、主君が。よし、告げ口しよう。道灌はけしからんですよ、川越城を勝手に修理していません、殿に断ったんですか、と。いや、おれは聞いていなかった、と。そうか、けしからんやつだなあいつは、と上杉さんはうっとりするわけですね、部下の告げ口に。そのうわさがまたぱっと広がるわけです。だから、道灌の腹心が、謝りに行ってください、言い訳し

てくださいと、そう言うわけです。そうしたら、こう言うんですね、道灌が。いや、陳謝に及ばず、と。疑われるんだったら疑われる部下が悪いんだと。そういう心のきれいな人なんですね。これがすばらしいところなんですよ、道灌の。だから、ヤマブキの伝説みたいなのが残る人なんですけど。

それで、謝りに行かないわけですよ。謝りに来ないのはけしからんと、また告げ口するわけですよ。主君が呼ぶわけです、伊勢原に。この前はごちそうになった、今度はおれのところに来い、と。行くなと言うんですね、腹心は。殺されるからと。いや、そういう考え方はだめだ、と。主君に疑われるとしたら自分が悪い。私は疑われるようなことをしていないんだから、主君からお招きを得たんだからと、たった7人しか連れなくて行くんですね。そうしたら、よく来た、ふるに入れ、と。それで出てきたところを殺されるんですね。自分でやるんじゃないですよ、上杉さんは。部下に殺させるんですけどね。殺されちゃうわけです。そのときに、当家滅亡というわけですね。私を殺すようなことをするようじゃ、上杉家は滅亡すると。それで、このとおり、関東は麻のごとく、この後乱れちゃったわけです。江戸城も非常に荒廃したわけです。

これ、この辺ですよ、今、富士見櫓があるところ。こっちが皇居前広場。この辺にいたわけですね。道灌濠というのが、こう、こう、こう、下、中、上と、三つあったんですね。やっぱり、千代田区にある銅像が一番いいでしょう、道灌の。国際フォーラムにありますね、前の都庁にあったのが。

だめになっちゃった江戸城を復元したのが家康です。問題は、道灌と違って、道灌はここがこっちへ行こうと、足利を攻めるのに北がいいと、それで江戸城に出てきたんですけど。家康は自分の意思じゃなくて、秀吉に、北条さんを一緒にやっつけたから、あんたが関東をやってよと。家臣団は反対するわけですね。それで、家康は出てくるわけです。これが、千代田区立図書館に長年勤務なさった鈴木理生さんの、これはいいカウントをしてくれたなと思うんですけど、この26年間ですよ。1590年から、大坂冬の陣までの1616年まで。この間に、江戸に住んでいたのは、家康は何と4年半くらいなんですね。鈴木理生さんは記録を全部確かめて、千代田区立図書館にあるんですよ、きっと。さすがですね。お宝があるんですよ。それ以外にもいろいろお宝があるんですけど、千代田区立図書館には。原本とか、そういうのがあるんですけど。その話はきょうしませんけど、4年半しか住んでいなかった。これが肝心なところなので、それで私は、これを読んで、そうかと思ったわけですよ。

まず、家康の時代に首都のまちづくりをしていないんですよ、東京は。関東の中心地、道州制の首都みたいなところのまちづくりしかしていないんですね。全国の首都というまちづくりをしていないんですよ。その原因がこれなんですよ。家康は、26年間、関西に住んでいて、政権をとるのに忙しかったんですよ。部下はそんな、政権をとる意識なんてないですからね。だから、結局、関東の城でいい、まちでいい、と。それで、よく、のの字型とか、方位がどうのとか、鬼門がどうのとか言われますけれど、江戸城を中心にスプロール状に発達していく、そういうまちができたんですね。だから、そういう意味では、家康がいなかったのをばかにしてもいけないので、おかげで皇居が中心になったということもあるかもしれないですね。これも、神田の古本屋さんって、すごく大事だと思うんですけど、ある日見つけたんですね、この地図を。江戸時代のがこの塗ってあるところでし

て、白いところに都電の　まあ、このころは市電か。大正時代からだから。その線路がありますけれど、大正時代と重ね合わせた、おもしろい地図なんですよ。その後、江戸と現代と、重ね地図なんていうのを、千代田区が区役所で、デジタルで発行しましたけど。河岸がたくさんできたわけですね。だから、水路がたくさんできたと。これが非常に千代田区の水面率って高いんですけれど、水、まさに水の都で、これまた、世界の大都市でこんなに中心部に水があるところはないので、だからこれはお金をかけても、私は大事にすべきだという話が後でまた出てきますけれど。と思います。

私が　本当に覚えているんですよ、私。東京駅の八重洲口を出たときに、あそこ、外濠、お堀だったんですよ。この中に、私よりか年配の人がいそうもないな。知ってるでしょ。いたら、知っていますよ。埋めちゃったんですね。あれはしょうがないんですけど、当時、マッカーサーに、とにかく東京大空襲の瓦礫を早く片づけろと言われて、それで埋めたということもあったので、しょうがない。占領下ですからね。

もう一つ、水の都になったのは、もっと水の都だったというのは、利根川がここにあるでしょ。今、八ツ場ダムでもめていますけど。利根川、荒川、入間川って、これ全部、隅田川に来ていたんですよ。これじゃ水害でたまらんとということで、利根川を東遷といって、東に移したんですね。霞ヶ浦を通して、直接太平洋に行っちゃう。東京湾に来ない。これで隅田川はかなり軽くなったんですね。ところが、自然の摂理から言うと、利根川から来る水は、江戸が使っていたんですよ。それで、水不足になって、利根川導水路というのをつくったんですね、荒川に来る。という話をしていくと、八ツ場ダムをつくるべきか、つくらざるべきかという話になると、きょうの本題から外れるので、これはもう、パスしますけど。

水路を大事にするという意味でいうと、首都高がこう塗られているんですけど、これ、わかりますよね。飯田橋の駅から日本橋川がこう来て、ここを通過して常磐橋を通過して、日本橋を通過して、隅田川に行くんですね。それで、これが今の神田川のと、大体同じですけど、神田川と飯田橋で分かれていたのが日本橋川で、間違えちゃいけないのは、日本橋川の復元というから中央区の話だろう、と。千代田区と関係ねえと思ったら大間違いで、日本橋川のほとんどは千代田区を流れているんですね、川として。だから、「日本橋の復元」と言われたらほっておけばいいんですけど、「日本橋川の復元」というふうに私が言ったら、賛成していただきたいんですけどね。これだけだったら中央区なんですけど、これは飯田橋から日本橋川を、九段に向けて眺めたところ。これ、ちょっとやっぱり、千代田区民から見ると、失礼だと思いませんか。これはやっぱり、地下に埋めてもいいのかなと思いますけどね。たかがボストンですよ。1兆8,000億かけて、ビッグディグプロジェクトというのをやって、地下に埋めたんですね、高架高速道路を。清溪川はたかがと言いませんよ。清溪川は、やはりソウル市役所の前の高架高速道路をどけましたよね。清流復活しましたよね、下水の三次処理水ですけどね。こういうことにお金をかける時代なんですよ。とにかく、江戸城はこうやって、同心円的な拡大をしていって、これが現代に至っているんですね。

大久保利通。これがまた、首都を復活したんですね。この人は、事実上ずっと首相の座にいて、若いときから、38歳から48歳、暗殺されるまでね。若いのに、判断を間違えていないよなと思うんですけど、その原因はこの赤字で書いてあるところなんですよ。少

年のころ、14歳か15歳ぐらいで藩に出仕しますね。図書館の司書をやるんですよ。その図書館の司書の先輩のおじいちゃんがすごくいい人で、順番に読め、と。当時、薩摩藩は幕府の言うことなんか聞かなかったから、洋書もたくさんあるわけですよ。いろいろ読ませたんですね。世界の状況はこうだ、政治家はここで間違えとると。ここで判断を正しくやったとか、こういう国は栄えた、こういう体制じゃだめだとか、そういうことを全部彼は体系的に学んだんですね。これで、何で彼は判断を間違えなかったのかという謎が解けるわけですけど。それは、私、今、小説を書いていますから、楽しみにしてください。

この人ですね。ここの甲突川って、向こうに桜島が見えますけど、この左側で生まれたわけです。今はこういうところ、この向こう側が甲突川という場所ですけど。左側は、10年ほど前に初めて鹿児島で大久保利通の像ができたんですね。何でできなかったか。右側に西郷墓地がありますけど、西南戦争で大勢殺されたから、利通はだめだと言われていたんですね。憎まれ者だったんです。

この人の最大の功績というのは、いろいろあるんですけど、鳥羽・伏見戦争の後で大坂遷都建白書というのがある。これが歴史に残っているんです。これが、大阪だ、大阪だと言ったのは、賢明だったと思うんですね。京都からそんなに遠くないから。関西人にそんなに抵抗がないわけですよ。うまい！と思いますよ。千代田区議会の皆さんみたいにうまいですよ、やり方が。うまい！と思ったんですけど。そうしたら、いや、大阪じゃねえだろうと。みんな、新撰組だの何だの、それから、幕府の陸軍だの、みんな東北に行って一旗上げようとしているんだから、東北36藩同盟をつくって、官軍に抵抗しているわけ。明治2年までやりましたね、函館戦争を。だから、江戸ぐらゐまで行かなきゃだめだということで、江戸に行こうということで、ばたばたと、江戸に行っちゃったんですね。

そのときはもちろん、これは詳しくはやりませんが、天皇東幸という形にしたわけです。それで殖産興業で日本の基礎を築きましたよね。三新法という日本の地方自治法も大久保利通がつくったんですね。もちろん、明治21年に山県有朋が市制町村制をつくりましたけれど、でも、地方自治法は大久保利通がつくったんですね。これも千代田区で殺されましたけど。紀尾井町ですね。本当はこれをやるとおもしろいんですけどね。

何で分けてあるか、大体わかりますか。実際に戦った人が官軍で、下。旧幕府軍も、実際に戦った人が下。上の方は、途中で手を握ろうよと言った人たちね。徳川慶喜と勝海舟はね。だから、正確に言うと、旧幕府軍というのは下の人たちですけど、これを見ると、全部主流派じゃなかった人なんですよ。榎本武揚は4年半もオランダに留学していて、帰ってきたら、おまえ、フランス語、オランダ語、みんなできるんだからとフランスと組みましたからね、幕府は。だから、海軍副総裁 最初、勝海舟が海軍総裁だったからね になって、結局、明治2年まで函館で戦った。大鳥圭介、これなんか、武士でもなかった人なんですよ。彼はやっぱりフランス語が非常に達者なので、だから、フランス軍が助けてくれるんだから通訳だということで、これまた歩兵奉行に取り立てられて、旗本に急遽なっちゃった。あとはみんな、多摩の農民ですよ。というふうに、主流派でない人が結局最後に幕府に忠義を尽くしたんですね。何となく人生を考えちゃうリストでしょ、これ。

江戸城に戻りますが、これ、全部江戸城に、江戸城を舞台にした話がたくさんある人た

ちですけど。

もう一つ、明治になってから、丸の内をビジネス街にするということが実現しまして、これが実は1回写真が出てきたと思うんですけど かなり前だな、これですね。結局この1枚の写真に皇居があります。立法、司法、行政があります。全部入っています。おまけとして、桜田門の警視庁までありますけど。全部この1枚の写真に入っちゃうように、実に、今、コンパクトシティというのを、私たち社会資本整備審議会で行っているんですけど、高密度都市といって、きちんと、あんまり分散してスプロール化するのはやめようと。中心地を集めて、高機能化したほうがいいじゃないかという話をやっているんですけど、まさにとっくにそうなっているんですね。これが不動産事業者さんの広告とかで同心円的に皇居から何キロということになった歴史なんですよ。そういう、それぞれの中に、いろいろとストーリーがあります。それはやっぱり人生ドラマがあるので、そういうそれぞれの人生ドラマに、人によって違うアプローチの仕方をしているんですけど、その思いがみんな皇居に凝縮しているんですよ。だから、日本人にとって皇居というのは特別のものになるんですよ。

これは後藤新平です。いいですね。日比谷公会堂も、実は公民館とか公会堂というのを日本で初めてつくったのはここなんですよ。これは人々が政治を議論する場所が必要だという考え方でつくったんですよ。まさにこの、ここの区議会の使い方なんかと同じだと思いますけど。

それから、陸軍なんかも、昭和6年に陸軍防空緑地計画をつくったときも、皇居中心で防火緑地帯を周辺部につくる。

それから、戦争が終わって、東京都がつくったのもこういう計画で、皇居を中心に同心円的につくるということで、この輪っかは、環一、環二、環三、環四、環五、環六、環七、環八と。内堀通りから順に、放射状で道路が出ていくと。放射状の道路に対して、立体交差で環状道路を組み合わせるといって、世界でも珍しい、意識しなかったんだけど、結果的には自動車交通にぴったりの、完成していないのが問題なだけで、完成すると世界でも最も自動車交通には便利な都市になるんですよ。わかるでしょ。ニューヨークみたいに碁盤の目だと、できないんですよ、そういう立体交差の環状道路というのは。だから、これを完成させるとすごくよくなるんですけど、そうするとまた、外環をつくれとかいう話に発展してっちゃうので、きょうはしませんけど。

そういうストーリーを前提として、観光を考える。だれしも言いますが、観光というのは、国の光を見ると書きます。文化・文明なんです。そういう本質的な魅力、それに、人々の心に訴えるストーリー性がある。もう一つここで提案したいのは、やっぱり、「歩ける、座れる、夜遅い」。皇居はそうしなくていいですよ。ナカタニさんの思い出の場所とかは、静かに大事にとっておいていいんですけど。一般論ですよ、私が言っているのは。皇居をこうしようと言っていないよ。一般論で言うと、観光。これ、一般論ですよ、観光と書いたから。皇居をこうしようと言いたんじゃないですよ。

もう一つ大事なのは、そこに住んでいる人たちがそこが楽しいな、いいなというのが、どれどれ、そんなにいいの、と言って、観光で来るんですよ。ようこそjapanとか言って、ホスピタリティーを持って英語表記をして、自分たちは引っ込んでいるというのは、そういうのはやめたほうがいいですよ。やっぱり、仲谷さんも喜ぶという。でもみんな

がどれどれと見に来るとというのが、私はそういうまちづくりをすればいいので、地元の人もいいというんじゃないじゃ、これは本末転倒だと私は思います。本質的なものがあると、来るんですよ。

ローマ。これはエマニエル2世記念堂。白いのがね。近代ローマです。近代イタリアですか。その隣がフォロロマーノ。2000年前ですよ。それから、ここに緩い階段があるでしょ。これがミケランジェロがつくったルネサンスの階段ですよ。人間復興ですよ。ここに、古代ローマ2000年前とルネサンス、ミケランジェロと近代ローマと、1枚の写真に三つおさまっちゃうんですよ。これがローマの魅力なんですよ。ローマにホスピタリティーはありますか。全くないんですよ。すりは多いわ、かっぱらいは多いわ、ホテルは勘定をごまかす。最悪の都市ですよ。だけど、すりに遭った人でまた行った人、私、知っていますから。でも、ローマはやっぱりいいわとか言って、行くんですよ。だからホスピタリティーを持つなどと言っているんじゃないですよ、千代田区民に。千代田は、やっぱり、全国の模範ですから、いい人でいてほしいですけど。

もう一つ、階段って、バリアフリーなんですよ、私は。だけど、座る階段です。いや、嫌だという人がいるところにはつくらなくていいですよ。

世界で栄えているところ、モンマルトルの丘のサクレクール寺院の階段なんかは、やっぱり座るところがあるんです。座るための階段。これなんかは、まさに上っても何にもないんですよ。座るだけのためにある階段ですね。ロンドンのピカデリーサーカスですね。つまらないところだけど、座るところがあるから、ここで待ち合わせするんです。

ニューヨークのタイムズスクエアね。ここは、ここだけはピンポイントで繁華街にする。だから、ニューヨーク市の条例で、派手なネオンサインを一日中つけておけというふうに、条例で決めたんですよ。ほかは禁止ですよ。ここはつけておけと。それで繁華街にする。トイザラスも入っているし、ディズニーも入りましたけれど、階段を道路につくっちゃったと。作りつけでつくっちゃった。

正面から見ると、こうなんです。これを上っていくと、行きどまりなんですよ。イベントのときに、ここに座るための階段なんですよ。その話を私が熱海の商店街で、何で寂れるのという話を、景気をよくする話をしてくれというから行って、座るところがあると栄えるよと言ったら、座るところを置いたんですよ。栄えたかどうかは知りませんが、座っていますよ、ちゃんと。

ストーリー性という、ここですよ。『シェルブールの雨傘』というミュージカルは年配の人しか知らないんですけど、私はそれを見たくて行ったんですよ。そうしたら、撮影ポイントはこの1カ所のみで、お勧めできません。何の変哲もない田舎町なんです。北フランスですけどね。でも、行くんですよ。日本人は大勢来ると言っていました。傘を1万5,000円ぐらいで売っていました。「シェルブールの雨傘」と書いてね。

アビニヨンの橋。『アビニヨンの橋の上で』。南フランスですよ。これも、こんな、役に立たない欠けた橋なんですけど、『アビニヨンの橋の上で』というリズムをみんな知っているから、行くんですよ。私は行ったんですよ、それで。ここはいろいろおもしろいものがありましたけど。

だから、やっぱり、そのまちのストーリーをやっぱり大事にしている。つまり、観光というのは、私は歴史と伝統を大事にしていくことと一致しないといけないので、あんまり

無理して、客さえ来ればいいというものではない、と。

最後にこれです。ニューヨークのタイムズスクエアにミュージカルを見に行きます。そうすると、チケットを買っているんですよ。買っている人たちがこうやって並んでいる。それをもぎりの、能率が悪いだけなんですけど。人を見ると、何か炊き出しの行列じゃないかと思うぐらい、ふだん着なんですよね。これなんです。ミュージカルはきらびやかですよ。だけど、見に行くのは家族連れで、ぞろぞろ行く。これがやっぱり、本当に。だから、我々も、飛行機の切符、20万円、エコノミーで買って、エコノミーでニューヨークにミュージカルを見に行くわけですよ。ミュージカル自体は1万円から2万円ぐらいですけど、切符を買って見に行くんです。

これはやっぱり、だれが育てたのかというと、我々が育てたんじゃないんですね。ニューヨークは、ニューヨークに住んでいる人たちが、みんなでミュージカルを家族連れでいつも見るから、だから、下手なのはブーイングですぐ倒しちゃう。私はその風景を何度か見たことがあります。ちょっと間違えると、もう、ブーブーと言って、倒しちゃうわけですよ。そのぐらい強いので、俳優はみんなもう必死で演技するんですね。それでいい芸術が育ったんですよ。つまり、いい文化、いい芸術が育つためには、いい観光地になるためには、まず、住んでいる人がこのまちは本当に楽しいなと、それから、住んでいる人たちが一流の芸術を育てるということで、初めていいものができて、みんながどれどれと見に来るんですね。我々は、遠慮しないで、自分たちにとっていいまちをつくってあげたい。それが結局、観光、景観、全く一致するんじゃないかと思います。

さっき、石川区長に挑発されたので、一言景観の話をしておきますけど、きょうは景観の全面展開はしませんけど。

私は、例えばロンドンだったら、そう、プリムローズヒルという、10キロほど行った高級住宅地の丘から、セントポール寺院の尖塔が見えなきゃいけないという眺望規制とかをやっていますね。そこがずれば、超高層ビルを建ててもいい。そういうような大きな話、だから、バラじゃなくて、大ロンドン市がやるわけです。

あと、それぞれの区については、例えば、シティーなんかは、高さ制限を全廃していて、容積率も全廃していて、前面道路制限もなしで、外資はどんどん来てちょうだいというので景気をよくして、だからそれで福祉ができるというやり方をしているわけですけども。そういうふうに、広域的にやるべきことと、それから、ここ自治体でやるべきことと、きちんと整理を、議論をして区別していくということで景観はやったほうがいいので、石川区長が言ったとおりだと思います。つまり、全部、都だというのは、それはねえだろうというのは、それは私はそのとおりだと思います。それはきちんと議論をして整理していくということが景観についても必要だということを、一言つけ加えさせていただきます。

どうも、私の話を聞いていただいて、ありがとうございました。（拍手）

第2部 司会 パワーポイントを使っただけ、なかなか楽しい、歴史から始まって、皇居のストーリー性など、いろいろお話、最後は海外のお話までいただきまして、ありがとうございます。

それでは、ここで、ただいま講演いただきました青山先生に、お話の中での内容につきまして、またそれ以外でも、ご質問がございましたらお受けいたしますので、どなたかいらっしゃいますでしょうか。

どうぞ、一番前の方。

参加者C また出てきましたけど……。

第2部 司会 ちょっと、マイクが。

参加者C はい。また出てきました。紀尾井町の………よろしくお願ひいたします。

千代田区には、区民の中で、いろいろなものの、ローカルの殿様、地方の殿様の末裔がおります。この間も、伊達様の末裔のお二人の方がここで講演会をしたんですけど、例えば、お堀の名前も、そのように、昔の、徳川様だけでなく、苦労なされたローカルの殿様方のお名前を、例えば、伊達濠とか、そういうふうに千代田区も協力して、ぜひ、掘り出して、これは観光のポイントにもなります。歴史の人物の解説にもなります。それで、そういう表札をお立ていただくとか、いろんなことを、これから将来の観光とかの展開に向けて、ご協力をお願いしたいのでございますけれども。よろしくお願ひします。

青山氏 そういう、お堀もそうだし、それから、坂だとか橋だとか、それぞれに実はストーリーがあるんですね。私は人物にストーリーがあると言ったけど、実を言うと、そういう一つ一つの場所とか物とか、そう、地名にもストーリーがありますから、そういうものをどんどん千代田区から発信していくといいと思います、私も。

第2部 司会 ほかに。

どうぞ、後ろの方。

参加者D NPO江戸城再建を目指す会、……聞きたいと思います。小竹と申します。

きょうは青山様のお話を伺って、都市観光、都市政策には、歴史の光を当てるべきだというお話を伺って、大変感動いたしました。私どもが進めている活動について触れたいところですが、時間もございますから、若干、青山様のお話をお聞きして、私が外国の友人から聞いた話を一つだけご紹介させていただきたいと思うんですけど。

東京は魅力のある都市かという私の質問に対しまして、そうは思わない、と。なぜならば、東京は世界都市の一つだと言っているけれども、五つの世界都市の東京を除くほとんどの四つの都市には、その国の歴史と伝統・文化を代表するモニュメントがある。詳しく申し上げるまでもございませぬが、パリのベルサイユ宮殿、ロンドンのバッキンガム宮殿、北京の紫禁城、ニューヨークですら自由の女神が、その国の歴史と文化を代表するモニュメントになっているんです。しかしながら、残念ながら、この東京には、そういう歴史的なモニュメントというのがあるのだろうかということから、私どもは、ぜひ、この隠された歴史の最大のテーマである江戸城天守閣を再建したいということで、取り組んでいるところでございます。

私どもは、本当に最後でございますが、NPOを立ち上げて3年になりますけれども、参加される会員総数が1,500を超えました。そして、最後の最後でございますが、私どもの会長は、太田道灌公18代ご子孫の太田資暁さんが会長をなさっております。こういふことで、せっかくの機会でございますから、青山様にこのテーマを、今すぐできるとかできないとか、3年、5年で建つとか建たないとかいうんじゃないかと、5年、10年、大きな今後の歴史の流れの中で、この点をどういうふうにお考えなのか、一言だけお聞かせください。

青山氏 はい。私、谷中の五重塔の復元の趣意書を書かせていただいたんですよ、この前。それから、東京スカイツリーの、この五重塔の心柱をあれした、あれの命名委員会

の会長だったんですよね。やっぱり、江戸の伝統というのは、近代文化とか近代文明とか科学技術に対して、遜色のない、物すごい考え方とか科学とか技術を持っています。江戸城、まず議論を盛り上げるというのがすごくいいと、そう思いますね。谷中の五重塔と同じで、江戸城の天守閣も、場所やなんかはわかっているわけですからね。姿もわかっているし。

参加者D ありがとうございます。

第2部 司会 ありがとうございます。

もうお一方、いらっしゃいましたら。

参加者E 九段三丁目の.....をさせていただいています、.....でございます。

私、七十余年こちらにいまして、まず、子どものころ、小学校のころは、千鳥ヶ淵でも、それから市ヶ谷のお堀でも、ヨツメの網を持って、エビをとったり魚をとったり、いろいろやりました。ところが、年がたつにつれて、非常に水の汚さといいますが、お堀が汚れています。それで、いろいろ、皆さんも研究なさっているんだと思うんですけども、基本的にはあれは、要するに大きな水たまりでしかないということですね。今の近代技術で、何とか、.....があったと思いますけども、何とか私の目の黒いうちにお堀の水をきれいにしていただけないかと。汚いほうがいいんだという方がいらっしゃってもそれはいいんですけども、私は自慢をして、外国からのお客さんなんかもお堀へ案内するんです。私、走れないものですから、ゆっくり歩いて、お堀の周りを歩くんですけども、非常に、常にとは言わないんですけど、地元に住んでいる者にしてはあのおい気が気になるんです。季節によって、非常にくさいです。ですから、やはりお堀の水を何とかきれいにする方法をお考えいただきたいと思うんですけども、いかがでしょうか。

青山氏 はい。江戸城のお堀の水というのは、雨水と地下水だけで維持できているわけなので、それであれだけの大きなお堀が維持できているので、すごく貴重な自然なんですね、あれは。それをいかに大事にしていくかというのは、私は、そういう科学技術は都庁が持っていますから、ぜひどんどんご活用いただいて、やるといいと思いますね。

井の頭公園なんかは、ずっと規模は小さいですけど、あそこはやっぱり地下水と雨水だけで維持されている池なので、それをいろいろ浄化装置というのを、小規模ですけど、いろんな実験をして、組み合わせてしています。ほかにもそういう例というのは幾つもありますから、ぜひ、皆さんも都民税を払っていると思いますから、ぜひそういうのを、よそに行かなくてもありますから、それをやるといいと思います、私も。

第2部 司会 ありがとうございます。どうもありがとうございました。（拍手）

時間の関係で、まだまだお伺いしたい方もいらっしゃるかと思いますが、この辺で青山先生の講演は終了させていただきます。

ただいまご講演をいただきました青山先生に、いま一度、大きな拍手をお願いいたします。（拍手）ありがとうございました。

それでは、続きまして、本日の講演会を開催するに当たりまして、区議会でも特別委員会を設けて、調査研究を進めているところでございます。そこで、皇居周辺景観及び観光施策特別委員会の活動につきまして、簡単に、高山はじめ同委員会副委員長より、ご紹介をさせていただきます。

高山副委員長、お願いいたします。（拍手）

高山議員 どうも、皆さんこんにちは。ご紹介を賜りました、皇居周辺景観及び観光施策特別委員会の副委員長を仰せつかっております高山でございます。まず、両先生方、大変素晴らしいお話をありがとうございました。（拍手）

最初に、委員会というのは何かということをご案内をさせていただきます。区政には、福祉、教育、まちづくり、区民の安全、その他非常に幅広い分野があります。それらについて能率的に審議をするために、分野ごとに委員会というものが設けられています。その一方で、一つの分野だけではおさまらない特定な案件も区政には出てまいります。それらを調査するために設けられたものが特別委員会となります。その一つが皇居周辺景観及び観光施策特別委員会でございます。

さて、千代田区議会において、観光を初めて課題として取り上げたのは、平成17年5月に観光施策推進特別委員会を設置したときでした。その当時の観光施策に対する一般的な考え方は、経済波及効果から商工振興の一環として、名所旧跡を生かして、あるいは、テーマパークやイベントなどにより、観光客を呼び、地域でお金を使ってもらおうというのが議論の中心でございました。しかし、議論を進めていくうちに、観光施策には、従来の考え方だけではなく、千代田区の歴史や伝統文化、それを裏打ちする史跡などをまちづくりにどのように生かして、千代田区にかかわる人だれもが地域に誇りを持てるようにしていくことも重要な視点であるという考えに至りました。その議論をもとに平成18年12月に作成されたのが千代田区観光ビジョンでございます。本日はその概要版をお配りをさせていただきます。

そして、近年、皇居周辺の景観保全が都心景観の課題となっており、昨年、皇居周辺の景観を保存するための意見書を、千代田区議会からも国土交通大臣及び環境大臣に提出をしたところでございます。

皇居周辺の景観は、千代田区民はもちろんのこと、国民にとっても大きな誇りであり、かけがえのない財産であります。皇居を有する地元区の議会として、積極的にこれにかかわっていき、研究をしていこうということで、意見が一致いたしました。そして、その結果、皇居周辺の景観と観光施策の推進については、区民、執行機関、宮内庁、政府、東京都、周辺自治体、学識経験者、また、皇居周辺景観の保存に関心を持つ方々と情報交換を行って、総合的に調査研究を行う必要があると考え、本年5月に皇居周辺景観及び観光施策特別委員会を千代田区議会に設置をいたしました。

現在は、この特別委員会で調査研究していく内容が非常に幅広いことから、研究するテーマを三つに分けて、分科会というものを設けて、積極的に独自の調査研究を進めております。ここで分科会とその所属委員を紹介をさせていただきます。

一つ目が、具体的な観光施策について調査研究を行う分科会です。光の分科会といたします。観光の楽しみの一つである食を初めとした課題で、全国の観光協会との連携や、観光協会を含む施策を推進する団体の強化策などについて、考えてまいります。分科会長は、私、高山はじめ、委員は、松本佳子、嶋崎秀彦の計3名です。

二つ目が、皇居周辺の生態系の充実と景観保全を中心に調査研究を行う分科会です。水の分科会といたします。皇居周辺の水と緑、堀や河川などについて考え、また、将来的に皇居周辺の景観を守るという観点から、委員会が調査・活動するようになった場合の諸条件の整備に努めてまいります。分科会長は小枝すみ子、委員は、鳥海隆弘、山田ながひで、

荻原秀夫の計4名です。

三つ目が、江戸時代から今日に引き継がれている皇居周辺の歴史的文化財を、観光資源という観点から調査研究を行う分科会です。時の分科会と申します。千代田区独自の財産となるもの、全国にも受け入れられる観光資源となるものの整理などを行います。分科会長は小林やすお、委員は、福山和夫、野沢けいすけ、市川宗隆の計4名です。

来年夏ごろまでに、分科会ごとに一定の結論に至り、再び特別委員会の中村つねお委員長を中心として、誇りの持てる、魅力のあるまちづくりについて議論を進めていくこととしておりますので、その際には、区民の皆様はもちろんのこと、関係団体各位の知識とご協力をちょうだいしたいと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

以上で特別委員会の紹介とさせていただきます。ありがとうございました。（拍手）

第2部 司会 高山副委員長、ありがとうございました。

それでは、最後になりますが、松崎浩一神田駅東連合町会会長より、閉会のごあいさつを申し上げます。（拍手）

松崎神田駅東連合町会会長 ご紹介いただきました、神田駅東の連合町会会長をしております松崎でございます。きょうは楽しいお話をたくさん聞かせていただいて、ありがとうございます。皇居周辺の景観と観光を考える区民講演会の閉会に当たり、一言ごあいさつ申し上げます。

本日は、皆様、最後までご傾聴賜りますとともに、活発なご発言をいただき、まことにありがとうございました。また、講師お二人の示唆に富んだお話やご提言を賜り、ありがとうございました。私ども区民集会運営協議会といたしましても、本日の講演を一つの契機として、千代田区の活性化につなげる区民集会の開催に向けて積極的に取り組んでまいりますので、皆様のご支援、ご協力を賜りますようによろしく願いいたします。

大変簡単でございますが、以上をもちまして閉会のごあいさつにかえさせていただきます。本日はまことにありがとうございました。（拍手）

第2部 司会 どうもありがとうございました。

皆様、長時間にわたり、大変お疲れさまでございました。

それでは、以上をもちまして、皇居周辺の景観と観光を考える区民講演会を終了させていただきます。本日はまことにありがとうございました。（拍手）

午後4時20分閉会